

# 法令および定款に基づく インターネット開示事項

## 連結注記表 個別注記表

第68期(平成29年1月1日から平成29年12月31日まで)

株主総会招集ご通知に際し、株主の皆様へ提供すべき書類のうち、「連結注記表」および「個別注記表」につきましては、法令および当社定款第16条の規定に基づきインターネット上の当社ホームページ(<http://www.fujicopian.com/>)に掲載することにより株主の皆様へ提供しております。

**フジコピアン株式会社**

## 連結注記表

### 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社…… 3社

フジ コピアン (HK) リミテッド (中国)

エフシー ベトナム コーポレーション (ベトナム)

富士加工株式会社

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

在外連結子会社の決算日

9月30日

フジ コピアン (HK) リミテッド

エフシー ベトナム コーポレーション

連結計算書類の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

国内連結子会社の決算日は連結決算日と同一であります。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等にもとづく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

② デリバティブ

時価法

③ たな卸資産

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産は除く）

国内連結会社は定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）ならびに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 15年～50年

機械装置及び運搬具 8年～10年

在外連結子会社は定額法

② リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零（残価保証の取決めがある場合は当該残価保証額）とする定額法を採用しております。

(3)重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

国内連結会社は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

在外連結子会社は、個別に回収可能性を考慮して計上しております。

② 役員退職慰労引当金

当社役員の退職慰労金の支払に備えるため、内規にもとづく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務および年金資産の見込額にもとづき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

イ. 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ. 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。

国内連結子会社および当社執行役員については、退職金の支払に備えるため、内規にもとづく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

在外連結子会社については、当連結会計年度末要支給額を計上しております。

未認識数理計算上の差異については、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(5)重要な外貨建資産又は負債の本邦通貨への換算基準

当社の外貨建資産および負債のうち、外貨建金銭債権債務については、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外連結子会社の資産、負債および収益、費用は、在外連結子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(6)重要なヘッジ会計の方法

長期借入金を対象とした特例処理の要件を満たした金利スワップについて、当該処理によっております。

(7)のれんの償却方法および償却期間

のれんの償却については、5年間の均等償却を行っております。

(8)その他連結計算書類作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

## 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号)を当連結会計年度より適用しております。

## 連結貸借対照表に関する注記

- |   |               |
|---|---------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額   | 15,531,720 千円 |
| 2. 担保提供資産およびそれに対応する債務   |               |
| (1) 担保提供資産  |               |
| 建物及び構築物   | 663,927 千円    |
| 機械装置及び運搬具   | 245,690       |
| 土地  | 1,583,494     |
| その他   | 1,372         |
| 計   | 2,494,485     |
| (2) 上記資産に対応する債務   |               |
| 一年以内返済予定  |               |
| 長期借入金   | 996,265 千円    |
| 長期借入金   | 2,489,370     |
| 計   | 3,485,635     |
| 3. 連結会計年度末日満期手形、電子記録債権および電子記録債務の会計処理は、手形交換日または決済日をもって決済処理しております。なお、当連結会計年度末日が金融機関休業日であったため、次の期末日満期手形、電子記録債権および電子記録債務が期末残高に含まれております。 |               |
| 受取手形及び売掛金   | 6,361 千円      |
| 電子記録債権  | 6,087         |
| 支払手形及び買掛金   | 32,161        |
| 電子記録債務  | 219,643       |
| 設備関係電子記録債務  | 117,133       |

## 連結株主資本等変動計算書に関する注記

### 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当連結会計年度期首 株 式 数 (株)	当 連 結 会 計 年 度 増 加 株 式 数 (株)	当 連 結 会 計 年 度 減 少 株 式 数 (株)	当 連 結 会 計 年 度 末 株 式 数 (株)
普通株式	17,894,877	—	16,105,390	1,789,487

(注) 1 平成29年7月1日付で当社普通株式10株を1株に株式併合しております。

2 発行済株式(普通株式)の株式数の減少は、株式併合によるものであります。

### 2. 配当に関する事項

#### (1) 配当金支払額

決 議	株式の種類	配 当 金 の 総 額 (千円)	1 株 当 た り 配 当 額 (円)	基 準 日	効 力 発 生 日
平成29年2月13日 取 締 役 会	普通株式	61,323	4.00	平成28年12月31日	平成29年3月10日

(注) 平成29年7月1日付で当社普通株式10株を1株に株式併合しております。

平成28年12月期の1株当たり配当額につきましては、当該株式併合前の実際に配当額を記載しております。

#### (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決 議	株式の種類	配 当 金 の 総 額 (千円)	配 当 の 原 資	1 株 当 た り 配 当 額 (円)	基 準 日	効 力 発 生 日
平成30年2月14日 取 締 役 会	普通株式	61,312	利益剰余金	40.00	平成29年12月31日	平成30年3月8日

## 金融商品に関する注記

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金の運用につきましては、安全性の高い金融商品で運用しております。また、資金調達につきましては、銀行借入により調達する方針であります。デリバティブ取引につきましては、相場変動によるリスクを軽減するため実需の範囲でのみ行い、投機目的では行わない方針であります。

#### (2) 金融商品の内容およびそのリスクならびにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、与信管理を行い信用リスクを低減しております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建の営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、一部について為替予約を利用して為替変動リスクをヘッジしております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクや発行体の信用リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務および設備関係支払手形、設備関係電子記録債務は、1年以内の支払期日であります。また、外貨建のものにつき、為替の変動リスクに晒されておりますが、一部について為替予約を利用して為替変動リスクをヘッジしております。

借入金は、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。

デリバティブ取引は、外貨建の営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。

#### (3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格にもとづく価格のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価格が含まれております。当該価格の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価格が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成29年12月31日における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません。（(注) 2. 参照）

（単位：千円）

	連結貸借対照表 計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	5,874,970	5,874,970	—
(2) 受取手形及び売掛金	2,534,394	2,534,394	—
(3) 電子記録債権	517,877	517,877	—
(4) 投資有価証券 其他有価証券	1,370,947	1,370,947	—
資産計	10,298,190	10,298,190	—
(5) 支払手形及び買掛金	569,721	569,721	—
(6) 電子記録債務	961,892	961,892	—
(7) 短期借入金	144,177	144,177	—
(8) 設備関係支払手形	27,294	27,294	—
(9) 設備関係電子記録債務	135,408	135,408	—
(10) 長期借入金(※)	4,012,748	4,027,195	14,447
負債計	5,851,242	5,865,690	14,447
(11) デリバティブ取引	—	—	—

(※) 長期借入金には、一年以内返済予定長期借入金を含めております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券およびデリバティブ取引に関する事項

資産

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 電子記録債権  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (4) 投資有価証券  
投資有価証券の時価については、取引所の価格によっております。

負債

- (5) 支払手形及び買掛金、(6) 電子記録債務、(7) 短期借入金、(8) 設備関係支払手形、(9) 設備関係電子記録債務  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (10) 長期借入金  
長期借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映することから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定してしております。なお、金利スワップの特例処理の対象とされた長期借入金については、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。((11)参照)
- (11) デリバティブ取引  
金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジの対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めております。((10)参照)

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区 分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	140,400

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

1 株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額 6,541円86銭  
2. 1株当たり当期純利益 166円24銭

(注) 当社は、平成29年7月1日付で株式併合（普通株式10株を1株に併合）を実施しております。当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。



## 個別注記表

### 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
  - (1) 子会社株式及び関連会社株式  
移動平均法による原価法
  - (2) その他有価証券
    - 時価のあるもの  
決算日の市場価格等にもとづく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
    - 時価のないもの  
移動平均法による原価法
2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法  
時価法
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法
  - (1) 製品・商品・仕掛品・原材料  
総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切下げの方法）
  - (2) 貯蔵品  
最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切下げの方法）
4. 固定資産の減価償却の方法
  - (1) 有形固定資産（リース資産は除く） 定率法  
ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）ならびに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については、定額法によっております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建	物	15年～50年
機	械 及 び 装 置	8年～10年
  - (2) 無形固定資産 定額法  
ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）にもとづく定額法によっております。
  - (3) リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零（残価保証の取決めがある場合は当該残価保証額）とする定額法を採用しております。
5. 引当金の計上基準
  - (1) 貸倒引当金  
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

## (2)退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額にもとづき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

### イ. 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

### ロ. 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

執行役員の退職慰労金の支払に備えるため、内規にもとづく当事業年度末要支給額を退職給付引当金に含めて計上しております。

## (3)役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支払に備えるため、内規にもとづく当事業年度末要支給額を計上しております。

## 6. 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る数理計算上の差異の貸借対照表における取扱いが連結貸借対照表と異なっております。

## 7. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

## 8. ヘッジ会計の方法

長期借入金を対象とした特例処理の要件を満たした金利スワップについて、当該処理によっております。

## 9. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

### 消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

## 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号）を当事業年度より適用しております。

### 貸借対照表に関する注記

1. 関係会社に対する金銭債権債務		
短期金銭債権		154,829 千円
短期金銭債務		98,127
2. 有形固定資産の減価償却累計額		15,253,067 千円
3. 担保提供資産およびそれに対応する債務		
(1) 担保提供資産		
建築物		647,394 千円
構築物		16,532
機械及び装置		245,690
工具、器具及び備品		1,372
土地		1,583,494
計		2,494,485
(2) 上記資産に対応する債務		
一年以内返済予定		996,265 千円
長期借入金		
長期借入金		2,489,370
計		3,485,635
4. 保証債務		
当社は、エフシー ベトナム コーポレーションの金融機関からの借入金210,052千円に対して保証を行っております。		
5. 事業年度末日満期手形、電子記録債権および電子記録債務の会計処理は、手形交換日または決済日をもって決済処理しております。なお、当事業年度末日が金融機関休業日であったため、次の期末日満期手形、電子記録債権および電子記録債務が期末残高に含まれております。		
受取手形		6,361 千円
電子記録債権		6,087
支払手形		32,161
電子記録債務		219,643
設備関係電子記録債務		117,133

### 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高		
営業取引高		1,525,631 千円
営業取引以外の取引高		47,425

## 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
普通株式	2,563,983	754	2,308,062	256,675

(注) 1 平成29年7月1日付で当社普通株式10株を1株に株式併合しております。

2 自己株式（普通株式）の株式数の増加は、単元未満株式の買取り（株式併合前530株、株式併合後124株）および株式併合に伴う割当端数株式の買取りによる増加100株（株式併合後）によるものであります。

3 自己株式（普通株式）の株式数の減少は、株式併合によるものであります。

## 税効果会計に関する注記

繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

### 繰延税金資産

退職給付引当金	215,505 千円
役員退職慰労引当金	37,329
投資有価証券評価損	24,028
たな卸資産評価損	16,764
未払事業税	11,474
関係会社株式評価損	8,850
その他の	15,751
繰延税金資産小計	329,704
評価性引当額	△304,032
繰延税金資産合計	25,672

### 繰延税金負債

その他有価証券評価差額金	△243,790 千円
繰延税金負債合計	△243,790
繰延税金負債の純額	△218,118

(注) 繰延税金負債の純額は貸借対照表の以下の項目に計上しております。

流動資産—繰延税金資産	17,883 千円
固定負債—繰延税金負債	236,002

## 関連当事者との取引に関する注記

属性	会社等の名称	議決権の所有又は被所有割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社	富士加工株式会社	所有 直接 100.0	当社製品の加工 役員の兼任	家賃の受取 (注1)	27,168	その他 流動負債	2,445
子会社	エフシー ベトナム コーポレー ション	所有 直接 100.0	当社製品の加工および 販売 役員の兼任	債務保証 (注2)	210,052	—	—

(注) 取引条件および取引条件の決定方針

1. 家賃の決定については、物件管理にかかる原価等を勘案し合理的に決定しております。
2. エフシー ベトナム コーポレーションの金融機関からの借入金に対し、債務保証を行っております。なお、保証料は受領しておりません。

### 1 株当たり情報に関する注記

- |               |           |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 6,416円73銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 107円52銭   |

(注) 当社は、平成29年7月1日付で株式併合（普通株式10株を1株に併合）を実施しております。当事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。